

質問4 所属する学会について <複数回答可> (その他)

その他記述	件数
日本農芸化学会	2
British Atherosclerosis Society, The Bioengineering Society	1
RNA学会	1
質量分析学会	1
植物学会	1
神経免疫学会	1
蛋白質科学会	1
日本RNA学会	1
日本ウイルス学会	1
日本ウイルス学会、日本獣医学会	1
日本バイオインフォマティクス学会	1
日本ヒトプロテオーム学会	1
日本栄養食糧学会	1
日本化学会、高分子学会	1
日本解剖学会	1
日本再生医療学会	1
日本再生医療学会 日本農芸化学会	1
日本蚕糸学会 日本研究皮膚科学会 日本毒性学会	1
日本植物学会、数理生物学会	1
日本人類遺伝学会	1
日本組織適合性学会、DNA多型学会	1
日本蛋白質科学会	1
日本蛋白質科学会、日本結晶学会	1
日本蛋白質科学会、日本結晶学会	1
日本糖質学会	1
日本農芸化学学会	1
日本病態プロテアーゼ学会	1
認知症学会	1
米国発生生物学会	1

質問6. 質問5.第37回年会コンセプトのように思われたご意見

質問5. 回答 1.よかった(賛同した)
2.よくなかった
3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	1	少しは改善の努力があったと思うため。
※	1	数多くのポスターをじっくり見ることが出来、討論もできました。
※	1	ワークショップで発表した偉い先生もポスターに立ってくれたので、議論がしやすかった。
※	1	ポスター討論の時間に他のプログラムがなかったため、ポスターをじっくり見て回ることができた。
※	1	多くの人に発表と議論の機会が与えられたため。ただし、全体として規模が大きすぎる。
※	1	ポスター発表で十分に議論できた。
※	1	直接議論できることが学会の醍醐味だから
※	1	演題数が多いのでこのようなやり方が一番効率が良いと思う。ただ、ポスター掲示時間が非常に限られていて、聞きたい演題中に自分の発表があったり…というのが残念ではあった。もうちょっと掲示時間が長ければよいのにと考えた。
※	1	ポスター発表の議論や企業ブース、データベースの紹介など、より良くなった気がしました
※	1	例年になく活発な質疑応答があった。
※	1	口頭発表者とポスター前で細かい部分まで討論できて良い時間が過ごせた。
※	1	日頃声をかけることができない先生方と直接話をする機会を得られるから。
※	1	ワークショップでは時間の制限から十分に質問等が行えないこともあるがポスターならディスカッションもし易い。
※	1	トークの短い時間だけでは細かいところが説明出来ないし、質問の時間も限られていますが、同じ人がポスターすことで(発表者には大変かもしれませんが)議論が深まりました。これは大変良いことだと思います。
※	1	発表者と話げできた
※	1	ディスカッサーを取り入れたのは、若手にとって日頃、お話できない先生と直接、会話ができるキッカケとなったので、とても良かった！
※	1	ポスターセッションはとても活気があった。ワークショップ中にもポスターの宣伝をする人が多かったのが印象的である。
※	1	コンセプト自体は、よかったと思う。皆で意見を交換することで、新しい発見をしたり、勉強になることも多いので、やり方が問題。
※	1	ワークショップに選ばれて口頭発表する期待を頂けたので、非常に嬉しかったです。ただ、ポスター討論は少し長すぎるかなとも感じました。しかし、体力を使い果たしてへとへとになるくらいポスターを見れたのは良かったかなとも思います。
※	1	ワークショップでの発表が、ポスター発表もされているのは非常に良かった。ポスター発表でまた細かく議論ができた。
※	1	普段、絶対に見に来られないディスカッサーの先生がいらしてくれて、ポスター発表したかがありました。
※	1	口頭のみだとディスカッションの時間が限られてしまうため、ポスターでのびのび質問できるのはとても良かったと思います。逆に、発表者にとってはスライドとポスターと両方作製しなければならず、負担になったように思いました。
※	1	ワークショップで時間が足りなかったところをポスターを聞きに行くことでフォローできたから
※	1	ワークショップでは時間もなくなかなか深い討論ができないと感じていたため、ワークショップ後すぐにポスター会場で突っ込んだ討論ができるというスタイルは良いと感じました。
※	1	最近の年会では、ワークショップの企画を出すのが特定のグループばかりで、そのようなグループに所属していないと口頭発表の機会がない。
※	1	良くなかったとは思わなかったため、良かったを選んだ。議論をするということであれば、テーマごとのパネルディスカッションも面白いのでは？
※	1	多方面のポスター発表が行われることは、自分以外の研究者の視点やアイデアを吸収することができ良い刺激となる。また、ワークショップで多くの研究関連企業で製品に関する情報を入手でき、関連製品購選別時間の短縮となる。
※	1	ワークショップとポスターが一致していることから、ワークショップの時に議論不足だったことがポスターを前にして再度議論することができたため。
※	1	ワークショップで聞いた内容をポスターで質問できるのでよかった。シンポジウムの内容も興味を持てるものが多かった。
※	1	ワークショップを聞いて出た疑問をポスター会場まで持って行って議論できた。
※	1	ディスカッサーのおかげでポスターセッションが充実していた。
※	1	学会の役割は、そういうところにあると思う。
※	1	コンセプトは知らなかったが、そのように感じた。全体の時間が長過ぎるので、ワークショップを減らして、会期を2日にしてほしい。
※	1	ポスター討論の場では、研究者同士のつながりが増えたり、興味のある実験のtipsを直接聞くことができるので、大変有用だと思う。
※	1	若手に多くの発表の機会が与えられ、実際に実験で手を動かす人の話を直接聞くことができたのは大変有益であった。
※	1	全体的に発表の中身が濃くなったように感じた。
※	2	ディスカッサーを投入する時間帯がわるく、あまり機能していなかったように思う。いつも通りにポスターセッションできたが、いつもより討論が充実した、という実感はない。ワークショップによっては、質疑応答の十分な時間がなかった。会場設定も、予想人数を上回りすぎて、中へ入れない所もあり残念だった。
※	2	議論を重視すること自体はよかったと思います。ただ、同じカテゴリーの演題が別の会場や日時にバラけていて、効率的に回るのが難しかったです。

質問6. 質問5.第37回年会コンセプトのように思われたご意見

質問5. 回答 1.よかった(賛同した)
2.よくなかった
3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	2	コンセプトの成否がディスカッサーに頼りすぎているように感じた。ポスター発表の時間が長かったのは良かった。
※	2	ワークショップがもう少しあってもよい。
※	2	ワークショップは2013年の年会の方が圧倒的によかった。来年のワークショップはぜひ2013年の形式で行ってほしい。
※	2	今年の年会は、ポスター討論の時間を長めにとっており、議論の活発化を目指していました。しかし、その一方で、シンポジウムやワークショップ形式の発表が例年よりも少なく、分野も限られていたため、討論の時間まで時間を持て余す方が多く見られたような気がします。また、本当に興味のある内容ポスターにはすぐに足を運びます。充実した議論の正味の時間を考えると、長時間の討論時間の確保は果たして必要だったのか疑問に感じました。
※	2	参加者が例年よりも少なかったのでは？最終日は特に人が少なかった印象がある。また、2つの類似ワークショップ申請を1つにまとめさせたことで、かえってコンセプト不明なワークショップ内容になってしまったり、隣のワークショップと同じような内容が並行しておこなわれている状況がちらほら見受けられた。
※	2	発表してみると、一般演題を聞いた人と聞いていない人両方同時にポスターで発表する状況に陥りやすく、どちらかに合わせたポスター発表をせねばならず発表しづらかった。
※	3	ポスターセッションでの議論はいつも通りでした。これまでもポスターセッションでは活発な議論があったという印象です。ワークショップへの一般演題応募については、私のまわりでは、採用された人がおらず、残念でした。
※	3	例年との違いを感じなかった。
※	3	特徴のない年会でした
※	3	理念は素晴らしいが、昨年から引き続いていて欲しいことが抑制されていて残念だったので、トータルでは良し悪しでした。
※	3	私はマイナーな分野で業績をあげているポスドクです。しかし、ポスター発表ではかなりな人数の方が来てくれました。ということはオーラルで発表もできたと思います。前回までオーラルでその他のカテゴリがあったんですが、今回はなかったため、オーラル発表の希望さえ出せませんでした。次年度からは是非ともその他の部門を作って頂いて、研究やポジションゲットの宣伝をさせていただきたく存じます。
※	3	例年と比べて時間は長かったが、内容は変わっていないように感じた。
※	3	そのコンセプトを今知った。いつものように人気(ないし知人の多い人)のポスターがにぎわっているが、その他はガラガラという例年通りだったので。
※	3	そのコンセプトを知らなかったが、学会中にそのようなコンセプトがあるようには特に感じなかった。例年の年会と違うなどは感じなかった。
※	3	ポスターの時間が長いうえに時間が遅くまであったため、後半に聞きに行っても発表者がいない、ポスターがはがされているなど、間延びしてしまっていたと感じました。ただ、ポスターセッションは個人的には多くのディスカッションができるため、ポスターを中心とした発表形式は良かったと思います。
※	3	そのようなことは別のもう少し小さい学会で可能であり、大きな学会で行うメリットがあまり感じられないので、昨年のコンセプトほどのインパクトは無い。もし、会員の減少が続いているなら、このコンセプトを続けても今の情報通信が発達していつでも専門の議論ができる社会で年寄りの満足でしかないのかな、とも思わなくはない。面白味には欠けるが、普通なので、「特になし」。
※	3	コンセプトがある事自体知らなかったし、いつもの分生とそんなに変わらなかったと思います。

質問7. プログラム集冊子のA5判形態について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	A4では鞆にはいりずらく、取り出しにくかったので今回の大きさがとても良かったです。手に収まる大きさなので扱いやすいし、見やすかったです。今後も是非続けてほしい。
※	自分の回りたい演題をオンラインで管理して、マイルスケジュールをあらかじめ用意できたので、ほとんど使いませんでした。
※	会場での持ち運びには大変便利でした。
※	もっとも理想的な形態だと思います。
※	A4のダイジェスト版が良い
※	企業ブースの細かいマップがほしい
※	持ち運びやすく非常に良かった
※	A5判は本棚に並べた際に他の書籍の間に挟まり見えなくなる。
※	とても便利だった！
※	当日持参していない人も閲覧できるように、会場に置いてあったほうがよかった(持ち出し禁止で)。ポスターの「Late-breaking Abstracts」演題については、検索のみの確認となっていたので、ほとんどチェックできなかった。「Late-breaking Abstracts」の締め切りから、当日まで結構時間があつたので、別枠でもリストをサイトに載せて欲しかったし、当日、別刷りにして会場で紙配布して欲しかった。
※	今回の形が良かったけど、自分は印刷版が必要ないと考えています。スマホで簡単に確認できて、メモなどもできて、すごく便利です。だから、印刷版が欲しい方だけ、配ったらどうですか？節約もできます。
※	冊子版は必要な会員のみが事前予約の上購入可能な形式にすれば良い。
※	内容はこのままで、もう少しすく(軽く)なると良い。

質問8. ITシステムについて <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	ITシステムに関しては継続してほしいです。前回のようにいいねボタンがあった方が、もっと議論が活発になったのではないかと思います。
※	学会に参加しない学会員も要旨が閲覧できるようにした方が良いと思いました。
※	大きな学会には不可欠
※	昨年までのスタイルが使い勝手が良かった。今年はイイネ！（興味深い）の数が圧倒的に少ないために、自分の研究がどういった人たちから高評価を貰えるのかについての情報が得られなかった。これは多くの参加者にとって非常に大きな損失だと思う。
※	スマートホンやタブレットを持たない人間には役に立たない
※	前もってスケジュール管理できるので、マイスケジュール機能は便利でした。
※	演題要旨をいちいちウェブで検索して見なければならぬのはやはり不便です。
※	アプリは正直言って使いにくかった。スケジュールに入れた演題が「興味深い」というボタンとリンクしていたらいいのと思った。（全然興味深いがついていなかったの、ほとんど質問を見越していなかったら沢山の方に来ていただいたので、もうちょっと「ヒトの入り」を見越せるシステムだったらいいなあ、と思った。）
※	1.ポスター発表に関して、「自分の発表時間」にディスカッサー制度の考慮がないのは残念であった。2.ワークショップに関して、「ある発表」がある会場で他にどのようなプログラムがあるのか、みにくかった。
※	アプリがとても使いやすく、役に立ちました
※	会場のwifiがアクセス過多で通信が滞りがちだった。
※	使用していない
※	マイスケジュールに登録した演題から、全体のタイムテーブルに移ってその前後の演題を参照したり、人材検索のほうからも演題の内容が参照できたり、などもっと有機的にリンクされていると使いやすくなると感じました。
※	スケジュール管理がしやすく、プログラム集を持たなくても場所や要旨が確認できるシステムはとても使いやすく便利でした。ただ、最新情報にアップデートする際機能が停止してしまったり、重くなり、また更新の頻度も多く、そのあたりの改善の余地はあるように思えました。
※	アプリのダウンロードに苦労した(apple storeアカウントに新たに登録しなければならなかったのも)。
※	今回採用した方法のように、要旨はwebサイト掲載で十分だと思う。

質問9. シンポジウムについて <複数回答可> (テーマが偏っている)

※	記述
※	全体的にインパクトがかけていたかもしれません。
※	テーマが重なったシンポジウムがあった
※	全体的につまらなかった。つまらないテーマに偏っていた。
※	植物関係が少ない
※	トレンド上、仕方がないと思うが、エピジェネティクス系の演題が多いように感じた。
※	見逃しただけかもしれませんが、コンピュータを使った生物(分子)のシミュレーションのシンポジウムがあっても良かったかなと思います
※	全体的に、医学・応用の発表が多く、基礎生物学的な発表が少ないように感じた。
※	個人的には、もっと疾患に関連するようなシンポジウムがあってもよかったように思う。
※	幾つか内容が近いものが同時に開催されていたりして片方にしか参加できずに残念に思うことがありました。
※	幹細胞にテーマが偏るのは時代の流れか？
※	ゲノム関連が多く、蛋白質代謝関連のテーマが少なかったように思う。
※	いつも同じようなセッションなので、少し趣向を変えたほうがよい。

質問9. シンポジウムについて <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	無くても良い
※	国内外問わず、演題の内容とインパクト、質重視で選んでほしいです。
※	学会参加人数に対して、シンポジウムの数というか、座席数の設定が少ないのではないか? 朝、人気のあるテーマの場合部屋に入れなかったという話を聞いた。中途半端に中継をやるくらいなら、部屋を拡げるかもっと沢山のシンポジウムを開催して、なるべく多くの人が聞きに行けるように工夫したほうが良かったのではないか。
※	国内外に寄らず、スピーカーの質をもっと上げて欲しい。ポスドクがやるような発表が多かったのが残念。

質問10. ワークショップについて（その他）

※	その他記述
※	ワークショップを午後一枠にまとめ上げたために、聴きたいセッションが被るケースが多かった。午前はつまらないのに、午後は消化不良という偏りができた。一般演題からの採択の妥当な数は、セッション毎にまちまちだが、大まかにはもっと少ない方がよい。口頭で聴くレベルに達していないトークが多かった。分子生物学会は、概してワークショップのテーマを斬新にキャラ立ちさせようとする傾向が強すぎる気がする。多くの参加者はそういうのは望んでいない。シンポジウムのもっと広いテーマの枠組みを設定し、広い範囲のポスター参加者から興味深い発表をすくいあげる方が、魅力的なワークショップが出来上がるかと思う。
※	ワークショップがすべて同じ時間なので、重複して聞きにいけない演題が多かった(たとえばエピゲノムや染色体関連のワークショップがたくさんあり、常に複数が同時開催されていた。)。ワークショップの中にも招待演者がいるので、シンポジウムを廃止して、ワークショップを午前と午後に振り分けるなど重複を減らした方がよい。
※	似たテーマのワークショップが同じ時間帯に行われていると感じたので改善してほしい。
※	是非ともどの分野にも属さないセクションを作っていただきたい。Genes to Cellsのポリシーもどんな分野にも対応する旨があるので、よろしく願います。
※	部屋が狭すぎる。立ち見では入れたらいい方で、部屋の中にも入れない。改善していただきたい。
※	ポスターの中に埋もれてしまうのには勿体ない貴重な発表をたくさん開けてとてもよかった。さらにそのあと、ポスターでも討論できるのでとても意義深かった。
※	2013年度スタイルの方がよい。ワークショップの一般演題は不要。
※	一部部屋が狭すぎて入れず残念でした。
※	同一時間に似た内容のセッションがあり、何度も移動することになるので、もう少し絞っても良い
※	ワークショップを減らしてポスター発表の演題を増やしているが、もう少しワークショップを増やしてもよかったと思う。ポスター発表の場合、直接色々な人と議論はできるかもしれないが、拘束時間が長くなり発表者の負担もあると思う。聞く方も、似たテーマの演題であれば、ワークショップで一か所でまとめて聞けた方が便利。また、若い人には大勢の前で決まった時間で発表するというのも、良いトレーニングになるのでは? 来年度は、もう少しワークショップとポスター発表のバランスについて考慮してほしい。
※	発表時間が長いほうがよかった
※	全て英語のワークショップがあったが、日本人が無理して英語を話すとかえって理解しづらい。日本語のままが良いと思う。

質問11. ディスカッサー制について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	ディスカッサーの存在感がなかった。どこにいたのか??自分の発表でも来なかったし。
※	「よくなかった」とまでは言わないが、特に必要性を感じなかった。
※	うまく機能していたようにとはとても思えない。分子生物学会で採用する意味はないと思う。この制度は、大学の教室のような小さい会場で一人が声を張り上げればその場の全員にそれが伝わるような場所でなら機能するかもしれないが、大会場ではディスカッサーの存在は埋もれてしまい、何を言っても周りの人には全く伝わらず、おおよそ議論の活発化にはつながらない。ディスカッサー担当者を束縛する分だけ不利益の方が大きい。数年前にも同じような試みをしているはずだが、執行部がその失敗に何ら学ばずに同じ失敗を繰り返しているのは残念だ。
※	他の発表者を見ていた限りでは、ディスカッサー制はじっくり議論ができていたようでよかったと思うが、自分ポスターには担当のディスカッサーが来なかった。このように会場に来ていないディスカッサーがいる場合、代わりの人を用意するか、来場していない旨をどこかに(ディスカッサー一覧のボード等)表示してほしい。
※	ディスカッサーが何をやる人なのか結局わからなかった。議論はしたが他の聴衆と何ら変わりなく、実際、議論の相手がディスカッサーであること自体、議論の終盤になるまでわからなかった。特にこの制度を取り入れた利点を感じない。ディスカッサーの人にとってただ負担になっただけなのでは?
※	基本的にはよかったと思います。ただ、議論が活発になされている演題に、無理矢理入ってきて、逆に演者と来場者の議論を遮ってしまうケースも見られたので、もう少し状況に応じてうまく機能してほしいと思います。
※	発表する側としては、ディスカッサーが1人来るか来ないかでそれほど違いはありません。専門でない分野のディスカッサーに当たった方の負担も考えると、積極的に続ける制度かどうか疑問です。
※	ディスカッサーが完全には機能していなかったと思います。年を重ねるごとに定着していけば面白いと思います。
※	去年からの変化がわからなかった。
※	ディスカッサーの方がいらっしやることで建設的なアイデアをもらえるなど良い面もある反面、ポスターは非常に限られた時間しか掲示されていないので、ディスカッサーの方がその貴重な時間を奪っているようなポスター発表もあったのではないかと思います。良い面と悪い面がある制度だと思つた。来年は完全に自由討論にしても良いのではないかと思います。
※	良かったのですが、取れて教育のために、参加した修士・博士課程学生から何人か(英語圏の人など)を指定しても良かったかなと思つた(どういった人がディスカッサーとして指定されたか知らずに記述しています)。
※	ディスカッサー制を導入するのであれば、ディスカッサーのヒトをわかりやすくすべき。
※	いないと質問者がほぼゼロのところもある。
※	有用なのかどうかまいちよくわからなかった。多く人が来ている場合は、ディスカッサーはケアしないという感じにしても良いのかもしれない。
※	ディスカッサーを設ける意味が分からない 議論が白熱しているところにディスカッサーが割り込むといったことがみられた
※	ディスカッサー制自体は有意義だが、ポスター発表者がディスカッサーを兼任している事があり、ディスカッサー本人のポスター発表が蔑ろになっていたケースがあった。
※	ディスカッサーを担当したのですが、役割が今ひとつ理解できませんでした。何人かの方に尋ねたところ、「学会に発表に来たのに、ポツンと誰もいないポスターの前に立っている学生さんがいたら、そこに行けば良いのです。大御所や、人気のあるポスターには必ずしも行かなくても良いです。」とのことでしたので、この方針を進めました。これで良いのでしょうか?なお、ディスカッサーをしたことで、普段ならあまり聞かない分野の細かい話を聞けましたし、逆に全く異なる分野のディスカッサーの方からの質問によって、意外な方向からの視点から自分の研究を見ることが出来て良かったと思います。
※	ポスター発表の時間が長い割に、ディスカッサー制度の導入により、ディスカッサーが居る時間だけしかポスター前に発表者がいないため、結局ディスカッサー以外の参加者が議論できる時間が今までより短かかった。ディスカッサー制度にするなら、座長制にして順番に発表させ、質疑応答時間を設ける方が良い。
※	システムが全然うまく機能していない。時間になっても、ディスカッサーの人が現れない。もしかするといたのかもしれないが、先にポスター前で説明が盛り上がっていたりすると、それを中断して始めにくかったのではないかと。それに、当日会場前にディスカッサーの名前が貼ってあるだけでは、かなり有名な方や顔見知りの方でないと、発表者の方も誰がどこのディスカッサーなのか区別がつかない。制度自体は、うまく機能すれば悪いものではないと思うので、やるのであれば仕組みをちゃんと見直して、ディスカッサーに指名された方にも周知徹底してやるようにすればいいと思う。
※	ディスカッサー制が機能しているかどうか、実感することができなかった。(だれがディスカッサーかよくわからなかった。)
※	ディスカッサーがどこにおられるかわからなかった。
※	ディスカッサーがいてもいなくても、議論は変わらない。分野外のディスカッサーならば、なおさら必要が無い。
※	自由討論とディスカッサーの時間分ける必要は無いのでは?
※	自分の時間と聞きたい演題の時間が被ってしまっており、自由時間に行ったが話を聞くことができませんでした。1時間ディスカッサーが来るのを待っていると少し自由度が落ちる気がしました。
※	当方のポスターに来られたディスカッサーからは、「仕事だから仕方なく見に来た。」という印象を受けた。
※	ディスカッサーの立ち位置が不明確だった。担当の先生によって進め方がまちまちで、今回はディスカッサーが居なくても議論が多かったように感じた。奇数偶数の時間は必要だが、立ちんぼの時間が今回くらい長めに取ってあるのが良かった。
※	ディスカッサーが入ったために、発表を聞けなかった。
※	ディスカッサーがどなただったか不明なまま終了してしまつた。

質問12. 一般演題全般について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	ワークショップとポスター、両方行うのは負担だった。同日のポスター発表を見るチャンスがなかった。
※	ワークショップに採択される演題をもっと増やしてほしい。
※	一日あたりのプログラム量が多すぎた。大会期間を一日増やしてほしい。
※	「ウイルス」のセッションを作してほしい。毎年、どこに出すか悩みます。
※	ポスターセッションで自分の回りたい演題に自分のセッション時間が重なってしまったりしたので、海外の学会などでみられるような、時間をずらして2回ポスター前に立つようにするなど、発表者に不利益にならない工夫をしてほしい。
※	時間が長いのは良いが、疲れるので休む場所がもう少し欲しい
※	3日はちょっときついです。せめて最終日にもシンポジウムがあれば、3日目のポスターももう少し盛り上がったのではないかと思います。ワークショップの分野をもっと柔軟にお願いしたいです。
※	最終日のポスターセッションの時間が、その他の日と同じ時間で設定されていたため、遠方からの参加者は帰宅に困った。
※	ポスターセッション2時間くらいでワークショップの1テーマ辺りの時間を5分くらい伸ばしたほうが良いかなと思いました(結構、スライドギリギリで後半、駆け足になっていた人が心なし多く見られた気がしました)
※	個人的には一つの分野のポスターを一日にまとめてほしいです。
※	分野ごとに日程を振り分けてほしい。
※	来場者が部屋からはみ出しているケースが多々ある一方で、空きの目立つ大きな部屋があったりと、もう少し予想される聴講者の人数に対して適切な部屋を選ぶべきだった。
※	夜遅目になっていたのもう少し早く(1時間ほど前)にポスターセッションが 終わるようなスケジュールリングでも良かったのではないかと。
※	ポスターをゆっくり事前に見る時間がなく、すぐに発表が始まってしまう。なので誰か他の方が先に来ていたりすると、順番待ち状態。ポスターを自由に見る時間をもう少しとれれば、質問者も要点だけうまく質問することもできるはず。それに、ディスカッサーの方がまとめてくれているならば、一度に沢山のの人に説明できるので発表者も楽だったはず。更に、偶数番号・奇数番号で分かれているはずが、ワークショップが少ない分、ポスターが混んでしまって結局最初から最後まで番号関係なく3時間しゃべりっぱなしだった人もいた。発表者自身も、拘束時間が長くて自分の発表日に他に聞きたい演題があってもポスターの前を離れられなかったのでは？
※	ポスターの発表時間が遅すぎる。3時間やるのなら、午前午後を挟む感じで、間に休憩があったほうがだらだらしないで出来たと思う。ポスター発表者が自分の発表場所から動かないので、発表者ばかりで、聞く側が少なかった。
※	ワークショップが固まりすぎている。もう少し沢山の講演を聴きたかった。

質問13. 企業展示会・バイオテクノロジーセミナー&ミニセミナーについて（その他）

※	その他記述
※	最終日にもバイオテクノロジーセミナーがあったら良かった。
※	最終日にランチョンセミナーが無いのが残念だった。
※	今回に限らず、いつもだが、参加人数に対してセミナー数が少ない気がする。昼食がでなくてもいいから、会場に入って聞きたいなと思うことがよくある。
※	整理券がすぐなくなってしまい、参加したくてもできない
※	企業展示会が新製品や新技術の紹介より、抽選がメインの会場になっていたのが残念だった。
※	企業展示が会場入り口にあり、ポスター展示会場までたどり着くのが毎回大変だった。企業展示は会場中央にあるのが好ましい。

質問14. 本年会の規模について（その他）

※	その他記述
※	もっと参加者が増えると嬉しい。
※	分子生物学会は人数が多いと割りきって、多いことによる長所を活かせば良いと思う。研究不正やポストク問題等に対する社会発信などに人数が多いことによる声の大きさを活かすべき。
※	学会自体はいつも沢山人が集まっている印象だし、沢山人がいるのは議論が活発になっていいと思うのだが、その分シンポジウムやワークショップの演題数や座席数をちゃんと考慮してほしい。立ち見多すぎ。
※	以前に比べると縮小傾向にあると思うがその分適切になってきていると思います。
※	日程に対して一日の演題が多い気がしました。ここまで詰め込んでしまうと広いポスター会場を回り切る前に疲れてしまい、十分に見て回れません。日数を増やして一日の演題を減らす方がいいと思いました。
※	規模は良いが、全体に椅子が不足していた。どのこの部屋も立ち見が続出していた。

質問15. 年会の開催形式について <複数回答可> (合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか)

記述	件数
生化学会	2
日本生化学会	2
生化学学会	1
生物物理学会	1
発生生物・再生医療	1
発生生物学会、細胞生物学会、遺伝学会、基礎老化学会	1

質問15. 年会の開催形式について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	分子生物学会単独でも大きすぎる一日のポスター数でも200-300位でないと見たいものを見きれない。またワークショップも同時開催が多すぎて、重複して聞けないものも多々あった。
※	同じ様な領域の学会なので、合同開催にして出張の負担を少なくしてほしい。

質問16. 年会会期が3日間であったことについて <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	4日間にしてもっと若手に一般演題(口頭発表)の機会を与えてほしい。
※	遠方からの参加だったので最終日発表だと最終便に間に合わず、どちらにしろもう一泊する必要があった。4日間の開催の場合と手間は変わらなかった。
※	最終日のポスターセッションの時間を検討して欲しい。
※	会場の費用の問題などあるかもしれませんが、夜のセッションを止めて、4日間にしたほうが良いと思いました。あと、三日なら水・木・金にしてほしいです。
※	多くのワークショップに参加できるように、各ワークショップの開催時間を散らして欲しい。
※	最終日が19:30までというのは長すぎる。大会日程を3日間としたため仕方がないのかも知れないが、それでも最終日は17:30くらいまでにすべき。
※	4日間にする事で、シンポジウムやワークショップ数が増えるなら4日間でも良いと思う。セッション数が変わらないのなら、3日間でみっちり詰め込みで良いと思う。
※	ポスターが例年に比べて少ないように思いましたが、そのようなことはありませんでしたか？ いつもはいくつもの会場に分かれて、4日間ですので、今回は1ヶ所で3日だったのでそのように感じました。が、ポスターが1ヶ所なのは非常に有り難かったです。これはぜひ今後も横浜ではお願いしたいと思います。(他の場所では会場の関係で難しいでしょうけれど。)
※	会期を伸ばして、似た分野を同日or連続した2日に設定して欲しい。前半・中盤・後半でそれぞれカラーがでるような会になれば面白いと思う。
※	3日でうまくまとめられるならそれで構わないと思うのだが、最終日が遅くまでかかると結局地方からきている人はもう一日滞在しなければならなくなったりするので、それならばゆとりを持って4日の開催にしてもいいのではないかと思う。
※	3日間はこの規模の学会としては短すぎます。特に海外からくる研究者にとっては、もう一日増やして、シンポジウムとワークショップをバランスよく振り分けることが望ましいです。
※	3日目のポスターのあと地方の人は帰るのが難しい
※	今回の規模で行うのであれば、3日もありかと思った
※	宿泊料金が上昇する週末(金、土曜)は今後も除外してほしい。今回はスケジュールがややタイトであったため、セミナーに参加する時間がなかった。興味のある演題の時間が重なるケースも何度かあった。
※	2日してほしい。

質問17. 市民公開講座「生命に迫るサイエンス&アートの新たな挑戦」について（その他）

※	その他記述
※	それぞれは素敵な作品だったとおもいますが、独立して行った方が、色々良かった気がします。例えばデパートとかで学会主催の展覧会を開くとか。
※	不要
※	公開講座は行っていないが、展示は見た。個人的には、絵が好きだし面白かった。どうせだったら、作品集やポストカードみたいなものを、もっと用意してもよかったかと思う。ただ、興味がない人にとっては、多分その分着席できるスペースやポスターを増やしてほしいと思われるかも知れない、という気がした。

質問18. その他、年会全般についてのご意見

※	意見記述
※	今回、ワークショップの会場が狭すぎと感じた。会場にも入れないワークショップが多数あり、入り口からのぞき見るという状態だった。もっと広い会場に欲しい。
※	聴衆数に対して小さすぎる会場を割り当てられたワークショップが散見された。ドアの外まで人があふれていて入れない場合もあった。場所に限りがあるのは仕方がないが、たとえば人があふれている場合には廊下にモニターを設置して中継する、などの臨機応変な対応を検討していただけると嬉しい。
※	就職支援は名ばかりで何も無いようなものだった。
※	高校生の参加者が多すぎる様に思う。
※	サイエンスの議論を中心に据えることは、決して他のイベントをすべからず抑制することでは無いと思う。評判の良いものは残り、余分だともわれるものを削れば良いと思う。ただ、ポスターセッションの時間に他のイベントを入れないのは賛成だった。しかし、ポスターセッションの時間を長く設定する必要は無かったと思う。
※	池上先生の講演を聴かせていただきましたが、あそこで取り上げられた生命科学を取り巻く諸問題はとても大切なことだと思います。ですが、意見を求められたパネリストが黙り込んでしまうなど、今回の講演のパネルディスカッションは不十分であったように思います。池上先生のお話はとてもよかったですと思いますが、次回、こういった機会があれば、議論に参加するパネリストは厳選してほしいと思いました。また、話に挙がった問題に対して、質疑のような形で会場の聴講者が意見が述べる時間があればよかったですと思いました。
※	今年は様々な試みがあり、とても刺激的でした。学会長を始めとする委員の皆様方、本当にありがとうございました。
※	ワークショップの部屋が狭すぎる。
※	ベビーシッターサービスは子供を持つ研究者にとって、大変ありがたいサービスなのでぜひ続けていただきたいと思う。ただ代金のことで少し不満が残っている。今回は利用しなかったが、前回利用したとき毎日預けるのでシッター代に数万円かかった。子供を預けない方が大半なので、サービスを利用する者が代金を支払うというはある意味当然だと考えていたが、大会が終わるときにベビーシッターさんから「こんなに大きい大会なのに、有料でサービスを提供しているのは珍しい。もっと小規模の学会でも、(学会負担で)無料なところもたくさんある。」という話を伺った。シッターさんにとっても、各子供に対して時間に応じた料金を計算して支払い手続きをするのが大変だったようで、一律で学会が運営・管理してくれたらよいのに…、ということだった。
※	シンポジウムやワークショップのテーマが決まった段階で、参加予定の人に聴く予定のセッションのアンケートをとって、各会場の大きさの目安にすると良い気がします(立ち見の席がある一方、空席のある会場が何回もあったので)(選挙の時の開票前の当選確実みたいな方法で予想できないでしょうか)。
※	フォーラムの企画があまり盛り上がっていきなかつたようで残念です。
※	年会開催、お疲れさまでした。
※	高校生ポスターの試みは良かった。昨今理系学生の減少が問題になっているのでぜひ継続してほしい。一方で参加している高校生の半数近くが同じ高校からの参加である点も気になった。SSHなどの文科省のコースと連携してより多様な参加者を募りたい。
※	IT関係の充実は非常にありがたいです。今後ともさらに良いものにしていただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。
※	ワークショップやシンポジウムの演題数が少ない為、会場に人が溢れていた。参加者が入れるだけのワークショップやシンポジウムを開催してほしい。偉い先生方がポスターを聞きに来てくれる仕組みを作って欲しい。また、ポスドクなどの就職斡旋もして頂けると、とても有り難い。
※	年会運営お疲れ様でした！
※	皆で議論をできるようにしようというコンセプトは非常にいいと思った。が、実際どう運営するかという点で、もっと事前に練った方がいいのではないかとこの箇所が多々見られた(ポスターとワークショップという口演の演題数のバランスや、ディスカッサー制度に関して)。色々難しい面はあると思うが、次年度以降変えられるところは変えてほしいと思う。
※	学会関係者の皆さま、大変お疲れさまでした。ウェブアプリの素晴らしさに感動し、学会も非常にオーガナイズされていて参加して良かったです。会場にケータリングがあるところも非常に良かったです。
※	年に演題参加するには、2年分の年会費をはらわなければいけないのが不満だ。その年の年会なのだから、その年の年会費だけで参加できるようにするべきだ。
※	海外からの日本人参加者として、いまだにこれだけの規模でドメスティックな雰囲気のある学会が行われていることが残念であった。海外の優秀な研究者が日本でのキャリアを考えるきっかけになるような役割を年会が果たすべきだと思う。
※	人数が多過ぎて入れないセッションが多々あったので、そういったセッションは次回は可能であればさらに大きなスペースを用意してほしい。昼食時にランチョンセミナーで空きがあるセッションは、アプリでお知らせが来るようにすればいいかなと思う。
※	昨年度、一昨年度に比べ、新企画や新しい試みが目立たなかった。3日間しかないのに、サイエンスの情報収集だけで精一杯で、サイエンスアートなどを堪能する時間的余裕など全く無かった。サイエンスアーティストの能力を、各自の研究成果のアウトリーチに活用するためのマッチアップや宣伝を学会が率先して先導しても良いのでは？
※	縮小傾向がみられ寂しい気もするが、以前は巨大すぎたため、全てを全容がまったくつかめずに疲れ果てた覚えがあるので、今回ぐらいの規模で続けるのが適切かと思えます。
※	今年度初めて学会参加すべく、学会要旨締切前に学会登録費を納入したにもかかわらず、学会直前に再度学会年会費の請求があった。学会年会費は研究費から支払いできないため自己負担である。学会登録費を二重に払った気分が不満であった。
※	海外ポスドクの招聘制度、良かったと思います。来年もお願いします。
※	初めて参加しましたが、
※	年会費あるいは学会参加費を安くしてほしい。
※	特にありません。お世話になりありがとうございました。
※	フォーラムの時間が被っていて聞けないものも多く、かつ時間が遅すぎて残念です。もう少し時間早めていただけないでしょうか